

■随想

「飯田やまびこマーチ」に

おいでなんしょよ!

亀井繁男 (高10回)

平成十四年秋からウォーキングを始め、いま、約五〇人の仲間と月二回のウォーキングを楽しんでいる。

そうした中、「あなたのふるさとでは毎年、伝統あるウォーキング大会が開催されていますよ」との話に、早速、インターネットで検索、事務局から資料を送付していただく。もちろん、即、参加の手続きをとった。

まずは飯田の旧市街を散策する

思い越せば、飯田高松高校に入学した昭和三十一年四月二十八日、二十九日に第一回競歩大会が実施され、九五三人が参加、男子の完歩率は六七パーセントであった。六九・三キロを八時間で完走したと、当時の校友会誌「高松」に記載されている。わたしは残りの三三パーセントの落伍者になり、未だにそのときの挫折感に苛まれて^{さいなま}いる。そこで今回は初めての参加でもあり、安



●かめい・しげお
昭和14年上郷村生まれ。同33年、飯田高松高校卒業、同38年、横浜市立大学商学部卒業。日本金融通信社および金融ジャーナル社、CBMCの役員を経て、本年6月末ハッピーリタイヤイ。目下、年金暮らし。

全パイをとって、両日とも一〇キロコースに参加した。

スタート時間は九時なので、開催前日の朝九時、新宿駅西口発の中央高速バスで飯田入りする。バスが辰野を過ぎるころ、車窓には、新緑の狭間に咲き誇る桜花やこぶしの花、ツツジの花が目を楽しませてくれる。指定ホテルにチェックインのあと、中央公園の大会本部で受付をすませる。

「せっかく飯田に来たんだに、一緒に歩きまいか」とのこと、そのまま飯田市街地の散策に参加し、飯田市観光ボランティアガイド六人の案内で、市内名所を巡る。

飯田の旧市街はゴーストタウンとは言わないまでも人影はまばらで、ひっそりとしていた。かつては電話交換手など沢山いたNTT飯田営業所も今は無人とか。飯田城主小笠原秀政室の福姫の墓、飯田最古の道標、赤穂浪士赤垣源蔵の生家跡、飯田城の外堀跡、日夏耿之介の墓、



出発式で牧野飯田市長の激励を受ける

菱田春草の墓、文七元結の碑などを巡り、扇町へ。

ちようど

りんご並木では、飯田東中学の生徒たちが手ぬぐいを姉様かぶりに、りんごの木の手入れ、清掃中だった。

昭和二十

二年四月二十日、大火災が発生し、市内の大半を消失した。当時小学二年生であり、大火には遭ってはいないが、その時のことをなぜか鮮明に覚えている。火災のあと整備されたのがこのりんご並木である。

十八歳まで住んでいたところではあるが、あまりにも

知らないことや知らないところがあった驚きと、ふるさと再発見の散策となった。学生時代よく通った喫茶店「十字屋」に行くも、すでに閉鎖されていた。そこでこども懐かしい「上海楼」の支那そばを食し、ホテルに戻った。

「完歩するぞ！」と意気高く

第一日目(四月二十三日)、四〇キロコースの参加者は、すでに早朝七時に出発していた。八時四五分から出発式。大会会長の牧野光朗飯田市長(高32回)が参加者を歓迎して「来年の二〇周年記念大会にも飯田に集まって、春を満喫してください」と挨拶。正木文夫県ウォーキング協会長の「完歩するぞ、エイ、エイ、オー！」との威勢のいい掛け声に合わせ、全国各地から集まったウォーカー約三五〇〇人がこぶしを突き上げ、後に続く。

市内の幼稚園児や小学生らでつくる「市スポーツ少年団カラーガード隊」に見送られ、九時、主会場の中央公園を出発。参加した一〇キロコースは、大宮神社の横を通り、野底山森林公園のチェックポイントで茶菓のサービスを受ける。野底の山道から柏原へ抜け、一一時、かざこし子ども森公園に到着して、ここで昼食。地元の人たちが振舞うタケノコ汁のサービスに舌鼓をうつ。その後、今宮球場を経て一一時四五分、振り出しの中央公

園にゴールデン。

今年は、桜の花は既に終わり、ミツバツツジの花がそこここに咲き乱れ、目を楽ませせてくれた。

午後二時から、中央公園にてウエルカムパーティーが開かれ、表彰式と歓迎セレモニーが行われた。驚いたことは、各地で開催されるウォーキングの全国大会に参加しているウォーカーが多く、それぞれに旧知の知り合いと見え、挨拶を交わし懇親を図っていたことである。

タイムカプセルに乗ったような

翌二十四日(日)も一〇キロコースに参加し、九時、中央公園を出発して、大宮神社を経て上郷下黒田諏訪神社へ。ときたま中学校の同級生の中村君が案内に立っていたので、特別に天保十一年(一八四〇)建築の国指定重要有形民族文化財「黒田人形舞台」を説明していただいた。

道々の果樹園ではナシの花付け(人工授粉)作業の真っ盛り。旧座光寺麻績学校校舎(県宝)を経て、麻績の館のチェックポイントで茶葉のサービスを受ける。両親の眠る墓地の横の坂道がコースになっており、急遽、お菓参りをさせていた。

母校の高陵中学、上郷小学校、飯田高校を横目に見な

から、上郷考古博物館のチェックポイントで茶葉のサービスを受け、野底川を渡り、江戸町を抜けて一時四十分、無事にゴールデン。

自宅から小・中・高等学校まで、いずれも五分以内で、ちなみに高校時代は昼食をとり自宅に戻り、サイレンが鳴ってから教室に戻っていた。また、飯田高校は小学生時代からの遊び場で、体育館に入り込んで飛箱をやったり、グラウンドにころがっていたラグビーボールをけったり、プールに忍びこんで、ツルサに怒鳴られて逃げ帰ったりといった思い出が彷彿と湧いてきて、この日のコースは、タイムカプセルに乗って幼年時代に戻ったかのような一日であった。おまけに菓参までできるなど、それは楽しい一日であった。

来年は、第二〇回の記念すべき大会だという。なんとしても参加しよう、と、一緒にした皆さんと約束をして、一六時発の中央高速バスに乗車、帰途についた。

「第19回飯田やまびこマーチ」(飯田市、日本ウォーキング協会、中日新聞社主催)は、日本全国で開催されている「日本マーチングリーグ(JML)」公式大会十五の内の一つで、今年四月二十三日(土)、二十四日(日)の二日間開催された。今年の大会テーマは「花と緑と陽光の中を」手づくりのおむすびを持って家族で歩こう。